

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人静岡大学

1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」の理念に基づく質の高い教育、創造的な研究及び未来を担う人材の育成を通して、人類の平和と幸福及び諸科学の発展に貢献し、地域社会とともに発展することを目指している。第3期中期目標期間においては、理工系イノベーションや地域の諸課題に取り組むことができる人材の育成、主体的・能動的学習の推進、世界レベルの研究の推進と世界的研究拠点の形成、地域社会との協働及び大学の国際化等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域社会の創造に取り組む人材を育成するための全学横断教育プログラムの展開を実施するとともに、「光」を軸とした地域との共同研究の推進を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- アジア・ブリッジ・プログラム（ABP）対象国において、日本留学フェアへの参加や現地高校訪問などを通し、ABPの広報活動を積極的に行った結果、海外入試における志願者数は1.8倍に増加するとともに、国内の日本語学校などにも積極的に広報活動した結果、志願者は7.2倍となっている。これらにより、10月入学者は海外入試・国内入試合わせて前年比の2倍になるとともに、海外からの留学生在籍者数は、中期計画に掲げる目標数の約66%となる406名になっている。（ユニット「地域の製造業を中心とする企業の海外展開等を支えるグローバル人材育成」に関する取組）
- 地域創造学環の3ポリシーについて見直しを行い、副専攻学生も含めた地域人材育成のモデルとして提示するとともに、静岡・浜松キャンパス間の実施協力体制を整備している。また、山岳科学について、林野庁・筑波大学・山梨大学・信州大学と連携協定を締結し、平成29年度から山岳科学教育プログラムを開始することとしている。（ユニット「地域社会の繁栄に貢献する地域人材育成と地域課題研究の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 多言語視聴が可能な動画を活用した広報の展開

広報委員会、広報室、情報基盤センター及び静大テレビジョンが連携して、学部等の紹介動画（「全体紹介」、「ダイジェスト」、「教員紹介」、「在校生メッセージ」の構成）を日本語版と英語版で制作し、ウェブサイト及びスマートフォンでの閲覧を可能としている。加えて、動画共有サイトの翻訳機能を活用して各国言語（104か国語）による字幕での視聴を可能としており、学部等の紹介動画は4,000回以上が再生され、ウェブサイトは70か国・地域からアクセスされている。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 多様な財源を活用した施設整備

アジアブリッジプログラム人材育成コースの設置に伴う外国人留学生の居住環境を整備するため、長期借入金と既存敷地の財産処分による収入により、静岡・浜松両地区に外国人留学生寄宿舍（収容定員合計190名）の新築、及び教職員宿泊施設を留学生寄宿舍へ用途変更する整備を実施しており、民間金融機関からの資金調達に加え、用地売却による財産処分収入等、多様な財源を活用し、全学的な教育改革・組織改革と連動した施設整備を行っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 地域社会の創造に取り組む人材を育成するための全学横断教育プログラムの展開

地域が抱える様々な問題と向き合い、その解決策を地域の人々と考えながら、より魅力的な地域社会の創造に取り組むことができる人材を育成するため、地域課題解決・地域人材育成のための全学横断教育プログラム「地域創造学環」を導入し、地域経営コース、地域共生コース、地域環境・防災コース、アート&マネジメントコース、スポーツプロモーションコースの5コースで1年次生52名が学修を開始している。

○ 「光」を軸とした地域との共同研究の推進

光創起イノベーション研究拠点に結集された光電子時間空間制御技術を「全く新しい立体内視鏡」に結集して実現し事業化する「光の先端都市『浜松』が創成するメディカルフォトニクスの新技術」事業を開始し、浜松医科大学や光関連企業等との連携体制を強化するとともに、革新的時空間イメージング技術の実用化に関する研究及び遠隔再現技術に関する研究を推進している。加えて、同拠点の実績を踏まえ、浜松地域中核企業候補となるベンチャー企業4社のグローバル市場を含む地域内外の市場への販路開拓、需要調査、事業化戦略の立案等を支援している。

○ 固体イメージセンサの高性能化・実用化における研究成果の創出

電子工学研究所では、携帯電話用カメラをはじめとする距離計測や細胞観察等の分野への展開に資する、固体撮像素子の研究開発における固体イメージセンサの高性能化と実用化等の研究成果により、工学分野での大きな業績を顕彰する英国クイーンエリザベス工学賞を同研究所の特任教授が日本人として初めて受賞している。